

木曾岬まちづくりセミナー2017
『地域まちづくりそれぞれの手法』
(2017年1月9日(月・祝) 於：木曾岬町役場)

■ **セミナー主旨**

木曾岬町には、トマト・海苔・養鰻等の特産品が数多く存在しています。また、それらを支えている人材こそ大きな資源であります。その一方で、後継者不足という課題も抱えております。

町内には小学校と中学校が1校ずつしかなく、高校進学からは町外へ出てしまいます。また、将来的に帰って来たいと思っている生徒は1割しかいないというアンケート結果も出ています。持続可能な地域社会を構築するという観点からは大変に由々しき状況（地域に担い手となる次世代がいない。）です。そこで、今秋より、地域で頑張っている大人の姿を次世代である中学生に広く知ってもらおうというプロジェクトを県内大学と連携して実施しています。これまでに多くの大人達の活動する姿を知り、地域の魅力をより一層掘り下げる事ができました。

そこで今回は、自分たち自身がこれからどのように行動に移せばよいのか。そのヒントとなる方法を提示したいと思っております。具体的には、全国のまちづくりの現場で実践を多く実施してきた方（大学生、他）をお招きし、活動のきっかけ、どのように組織化を図ったのか、仲間達と活動する意義等をご講演頂きます。後半では、実際に行動に移す第一歩として、グループワークを実施いたします。

■ **全体セミナー ～プログラム構成～**

※現時点の内容につき、パネリスト、タイムスケジュールほか、詳細変更の可能性あります。

1 開催日時：1月9日（月・祝）

13：00～13：05 開会：森 清秀(木曾岬町総務政策課長)※司会進行

13：05～13：10 挨拶：加藤 隆(木曾岬町長)

13：10～13：20 趣旨説明：永野 聡(三重大学地域創発センター講師)

13：20～14：00 講演「(仮) 学生としてのまちづくり手法」：富樫泰良(慶應義塾大学総合政策学部)

14：00～14：40 講演「(仮) 大学人としてのまちづくり手法」：永野 聡(前掲)

14：40～14：50 <休憩>

14：50～15：50 「(仮) まちづくりの処方箋：木曾岬町を面白くするには…」

・ コーディネーター：川地尚武((一社)リリース マネージャー/上席研究員)

・ グラフィック：肥後祐亮(NPO 法人グローバル人材開発センター)

※グループワークを実施。

15：50～15：55 おわりに：中村憲和((一社)わくわくスイッチ 代表理事)

15：55～16：00 閉会：森清秀(前掲)

2 場所：木曾岬町役場 4 階 会議室（桑名郡木曾岬町大字西対海地 251 番地）

3 参加費：無料、参加申込：不要

■ **本件に関するお問い合わせ先**

○三重大学地域創発センター 担当者名：永野（講師）

TEL：059-231-9969 Email：nagano.satoshi@mie-u.ac.jp

○木曾岬町総務政策課 担当者名：服部、中山

TEL：0567-68-6100 Email：seisaku@town.kisosaki.mie.jp

■ **共催：木曾岬町役場、三重大学地域創発センター**

■ 講演者：

富樫 泰良（とがし たいら）：Club World Peace Japan 理事長、慶應義塾大学総合政策学部在学中。

プロフィール：1996 年生まれ。2009 年中学生の際にイラク戦争についての本を読んだことにきっかけに 10 代が主体となり地域振興や災害派遣、国際協力まで幅広く活動を行う NPO クラブワールドピースジャパンを発足、現在も理事長を務めながら畑を通じた地域振興活動など現場で活動中。中高生と国会議員での国民投票を主題にした討論会を開催した他、「世界一大きな授業」では超党派国会議員らに授業を担当。東日本大震災の被災地で 10 代の意見を復興計画に反映させるため「閉上復興こども会議」を発足しコミュニティ再建にも取り組んだほか、御宿町・越生町で地域振興、まちづくりにも取り組む。NHK「日曜討論」に学生で初めて出演した他、多くのメディアに出演。2016 年 6 月 16 日 ディスカヴァー・トゥエンティワンより自民・公明・民主・維新・おおさか維新・共産の議員とのホンネでの討議や若者のリアル、活動を通じて感じたこと、各党の実績などをおさめた「ボクらのキボウ × 政治のリアル」を出版。

永野 聡（ながの さとし）：博士（建築学）早稲田大学、国立大学法人三重大学地域創発センター講師、国立大学法人福井大学特別研究員、早稲田大学理工学総合研究所招聘研究員。

プロフィール：1981 年生まれ。早稲田大学建築学科助手に在籍していた際に東日本大震災により実家が被災。その後、実家の復旧活動する中で、建築の専門性を活かした支援を模索。その一つとして、復興支援活動のタスクフォースを同大建築学科若手研究者で組織し、岩手県から茨城県まで被災地を踏査。その中、宮城県名取市閉上地区にて被災住民との震災復興活動を 2011 年 9 月より開始。2012 年、寺島実郎責任監修復興構想コンテストにて最優秀作（生物多様性の復元と生活文化多様性の創出に関する提言～仙台平野・名取市閉上地区周辺に着目して～）を受賞。現在も支援活動を継続中。一方、中山間地域である新潟県十日町市において「大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2012/2015」に作家として作品（からむしの部屋プロジェクト）を出展。その過程では、地元小学生とのワークショップ（染めもの）を実施し、地域資源を学習するプログラムを展開。「地域再興」を念頭に日本各地で多主体と連携した研究活動を実施中。

■ 第二部ワークショップ：

肥後祐亮（ひごゆうすけ）：NPO 法人グローバル人材開発センター、グラフィッカー

1987 年生まれ。基本的に頭にタオルを巻いて京都市内中心に活動するためタオルマンの愛称で呼ばれる。大学で小学校免許、幼稚園免許取得。持続可能な社会を作るための暮らし方、生き方を模索中。自分のように人生を迷走中の 20 代に何ができるかを考える中で幸せな人生を送るために「何を学ぶか」「どうやって学ぶか」を気ままに学び中。2015 年より本格的にファシリテーションを学び始めた。